

健康登山29: 周辺の山15 (天理 大国見山)

コース	天理駅 2.3km/36	石上神宮 2.3km/43	登山口 0.5km/15	桃尾の滝
	0.5km/15	龍福寺跡 0.7km/35	大国見山 1.5km/37	名阪国道下
	1.4km/20	岩屋磨崖仏 1.5km/23	白川ダム 4.4km/72	天理駅
水平距離	15.2km			
水平換算距離	14.8km			
累計高低差	登り513m、下り513m			
標準歩行時間	4 : 56			
実績歩行時間	5 : 18			
		断面図		



山行報告

山行日 2007・10・04 (木) 天候 晴れ 参加者 7名

行動 天理駅9:40 石上神宮10:20 登山口11:12 桃尾の滝11:20 あみだ磨崖仏11:45
 龍福寺跡11:52~12:03 大国見山12:32~13:24 名阪国道下13:59 岩屋磨崖仏14:21
 白川ダム14:44~15:00 ウワナリ塚古墳15:24 天理駅16:17 京都へ

記 録

天理駅前から真東に見える三角形の山が大国見山である。駅でもらった天理ハイキングマップによると全行程が14.5km、登山口までが5.0kmで下山口の名阪国道下までは8.5kmとなっている。その差3.5kmが山歩きで、残りの11kmはアプローチということになる。しかし往路には石上神宮があり、復路は古い家並みの残る岩屋の集落を通り白川ダムにも立ち寄れるので楽しく歩けるお奨めできるハイキングコースである。

8:22近鉄京都駅発の天理行きに乗車、駅前商店街を東に進み天理教本部前を経て石上神宮まで一気に歩いた。深緑に覆われた石上神宮は山の辺の道の間地点であり、ここから南へ続く道は今でも古代の風情が残り散策する人が多い。私たちは東へ進み、万葉集にも詠まれた布留の高橋を渡り、二本松、下滝本の集落を通り上滝本の道標のある登山口から大国見山に登った。10分ほど歩くと右側に落差23mの桃尾の滝が現れる、滝の下部には不動明王も祀られていてここまでは車でも入れる。さらに10分ほど歩いたところにあみだ磨崖仏があると案内されているので立ち寄った。龍福寺跡で行動食を食べ、大国見山までの高度差170mを登ったがかなりきつく感じた。山頂は見晴らしがよく奈良から天理方面が一望できた。

昼食後は分岐まで戻り、岩屋方面へ向かった。名阪国道の下をくぐり抜けると風格のある家々が立ち並ぶ岩屋の集落に入る。岩屋の磨崖仏を見た後、白川ダムに立ち寄り小休止。ここから天理へ戻る道は東海自然歩道と市街地を通るハイキングマップ道の二通りあるが自然歩道を選んだ。前月にも歩いた道だが、ブドウ畑や柿がタワワに実る道を通り、天理教本部を経て天理駅に戻った。

ブドウ畑の中にあるウワナリ塚古墳の石窟入口を探したが簡単には見つからなかった。石窟へ案内する標識も無く私有地なので入りにくい。

周辺の山 (天理 大国見山)



石上神宮へ向う
10:11



石上神宮
10:19



大国見山へ向う
10:29



桃尾の滝
11:20



あみだ磨崖仏
11:45



龍福寺跡
11:52



山頂から生駒山
12:54



大国見山にて
13:11



岩屋の集落
14:27



天理教本部から
見た大国見山
15:56

名所・旧跡ミニガイド（北山の辺の道 周辺の山：天理 大国見山）

参考資料、天照大神の謎、飛鳥昭雄／HP／他より

◎ 石上神宮：前回は御祭神を記載。今回は視点を変えて地名の布留に眼を向けました。石上神宮の楼門上に掲げられた額に「萬古猷新」の文字は「萬古名を新たしむ」と読むらしいが、変えれば「盤古猷(猶)神」のことで「盤古は猶太の神」であることを「萬古」という新名に変えたことを示しているとか。「猷」の意味は、はかりごとがしてあることを示し「猷」の同音漢字「猶」を充てれば猶太となることを想定して書かれているという説がある。（盤古：中国神話の天地創造の神です）

石上神社は物部氏の氏神、崇神天皇が物部伊香雄命に命じて天剣を奉祀させた。物部氏の祖は饒速日命で、天照大神＝神武天皇＝(応神天皇)＝(崇神天皇)＝辰王朝鮮半島「仁那(伽那)」の大王に繋がる同一人物だ。（神武天皇の謎、飛鳥昭雄著）

騎馬民族出身の幻の大王「辰王」は馬韓にいてそのまま百済の王家となる。出身部族は夫余族で、「高朱蒙」に系列する。高句麗、百済、新羅、伽那の王家はみな夫余族の末裔であるといえる。

韓国TVドラマ「朱蒙」は高句麗建国の始祖で伝説の英雄である。在位BC37~BC19(卵から生まれたという朝鮮神話がある)息子に沸流(兄)、温祚(弟)がいて国を建国する。《日本神話の海幸彦(兄)、山幸彦(弟)物語と基本的に同じである》

温祚は百済を建国。沸流は弁韓を支配下に置き伽那を建国、任那に城を構えた。すなはち、辰王で「任城の王」ゆえ、後にミマキイリヒコイニエ(崇神天皇)と呼ばれることになる。

半島情勢不穏な雲行きになってきたため辰王は、日本列島へと軍を進める。九州に上陸、天孫瓊瓊杵尊の降臨した話に結びつく、地名は高千穂クシフル岳、「櫛フル」であり本来の地名は「フル」。櫛は美称である。

(フル騎馬民族征服王朝仮説で、沸流＝布留＝神武天皇) …飛鳥昭雄説
朱蒙の父は解夫婁(解は太陽、夫婁は火を意味する) 夫余系騎馬民族のルーツはバイカル湖あたりらしい。「ヘブル」と称する遊牧騎馬民族は、一つしかなく、それは「ヘブライ」である。のちにイエス・キリストを生む民族である。ヘブライ人には、失われた支族が存在し、彼らを『失われた10支族』と呼ぶ。(飛鳥昭雄)

これでやっと、冒頭の石上神社楼門の額の文字の意味に繋がりました。

◎ 布留の高橋：前は万葉集で紹介したが、今回は上代で、仁賢天皇の時代、泣きながらこの橋を渡ったであろう、美女、影媛のお話。

五世紀末、日本史上最大の悪王といわれる武烈天皇(小泊瀬稚鷦鷯皇子)がまだ皇太子のころ、物部鹿火大連の娘、影媛に想いをよせていたが、影媛には恋人に平群真鳥の息子鮪がいた。影媛は執拗に迫る皇太子に、影媛は海石榴市(樺市)の催し物の「歌垣」で会う約束をした。その歌垣で鮪とばったり会った皇太子は三人で歌を交わすが、影媛はすでに鮪に身をまかせていたことがわかり、怒った皇太子は那羅山(奈良山)で鮪を殺す。平群鮪が殺されたとき、影媛が追って行って、その殺し終わる現場を見て驚き悲嘆にくれて歌った。

石の上 布留を過ぎ、 薦枕 高橋過ぎ、 物多に 大宅過ぎ、
春日 春日を過ぎ、 妻籠る 小佐保を過ぎ、 玉笥には飯さへ盛り
玉盃に 水さへ盛り。

泣き沾ち行くも。 影媛あはれ。 (日本書紀)

亡き恋人に供えるため、美しい食器に飯を盛り、美しい椀に水を汲み、泣きながら、影媛は山ノ辺の道をたどった。

葬送歌である、道行文学的表現で、物部氏の本貫である大和の国山辺郡布留から奈良山までの地名を道行式に列挙してある。(日本詩歌集より)

このとき父親の平群真鳥も政治がらみで殺されている。武烈天皇の乱行はその直後から始まる。国政をかえりみず、日夜女どもと酒池肉林に酔いしれたというのも、癒すに癒せぬ失恋の痛手にそれだけ苦しんでいたのかも。
所業：孕める婦の腹を刮きその胎を觀す。人の指甲を解きて、薯蕷を掘らしむ。

人をして樹に昇らしめて、弓を以って射墜して咲う。…等々数多くある。

天皇に子供がいなかった、そこで自分の名の小長谷部という舎人を御子代(御名代)として定め、その御子代が自分の名を後世まで伝えてくれるだろうという願いがそこには感じ取れるといわれる。武烈の治世は8年にして終わり、天皇の死とともに、応神天皇以来の、仁徳、反正、允恭と続く光榮ある応神王朝は十代目で断絶するのである。

(日本の歴史より。／歴史の転機…)

そして新王朝の継体天皇が即位する。今の天皇は継体天皇の末裔である。

歌垣：男女が山や市に集まって、歌いあったり踊ったりした行事。北摂に歌垣山がある。

- ◎ 桃尾の滝：布留川の上流、桃尾山にある高さ23mの滝。「布留の滝」ともいわれる。大和高原最大の滝で、古今和歌集にも読まれる景勝地である。松尾芭蕉もこの地に訪れている。「やまとの水」に選ばれたが飲料の度合は？
桃は間間(間)が訛り壻(がけ)は山と山の間を表わし谷間の滝という意味。
(比良に楊梅の滝があるが同じような解釈かな？(^_^))

明治に廃絶した龍福寺の境内地であったため、修験道の行場として知られ、滝に打たれ行をしている人を見かける。

毎年7月の第三日曜日は夏の安全を祈願して滝開きの神事が行われる。

- ◎ 龍福寺跡：和銅3年(710)義淵^{ぎえん}の開祖、20年後行基が16坊を配する大伽藍を完成させた。龍蓋(岡寺)、龍門寺(廢寺)と共に、龍名の寺では、大和三大名刹の一寺であった。現在、小さなお堂と、石碑がある。

- ◎ 大親寺：龍福寺の阿弥陀堂跡地に建てられた閑素なお寺。

- ◎ 大国見山ハイキングコース：石仏、磨崖仏が点在している。龍福寺信仰の名残か。
(コースから100m外れるが、時間が許せば阿弥陀磨崖仏も必見)

- ◎ 大国見山：△498m生駒方面の見晴らし抜群、条件がよければ、淡路島や明石海峡大橋が見えるらしい。

頂上の岩に、烽火^{のろし}(狼煙)を上げるための油穴(直径10cm位)が掘られている。または、神奈備山なので、祭祀を行うための盃岩と言う説もある。岩をよくみると線刻がしてあるが意味は不明。

頂上付近に巨岩の間をすり抜けるコースもあり、八個の巨石は「八龍王八箇石」といい、素戔鳴命が八丈大蛇を八つ裂きしたのが天から降ってきた名残といわれている。

- ◎ 岩屋集落：大和棟が美しい岩屋の集落。線刻の磨崖仏がある。

- ◎ 増田酒造：岩屋集落にある350年つづく造り酒屋。寛永2年創業(現当主は12代目)
地酒は清酒「都姫」：銘は聖武天皇の母、「宮子姫」に由来とか。